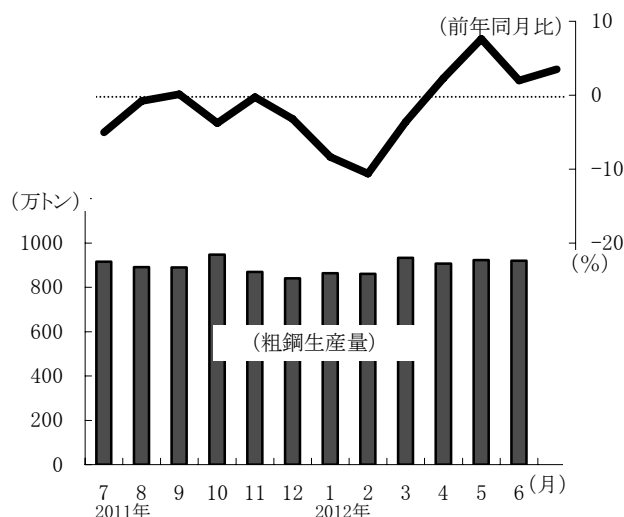




ほぼ横這いとなった。円高による輸出採算の悪化や、造船・電機など一部製造業向け需要の不振もあったが、自動車用関連需要の好調などが追い風となり、年換算で1億900万トン前後の生産水準を維持した。1～6月の炉別生産は、転炉鋼が前年同期比1.8%減の4,091万トン、電炉鋼は同6.0%増の1,316万トンとなった。転炉鋼は高炉メーカーの輸出向け生産が伸び悩んだことなどが影響したのに対し、電炉鋼は建築・土木向け需要が底堅かったのに加え、特殊鋼専門メーカーの生産好調が押し上げ要因となった。下期については、国内外で先行きの需要に不透明感が強まっており、上期の生産ペースが続くかどうか流動的となっている。

図1 国内粗鋼生産の月次推移



財務省が発表した6月の鉄鋼貿易量は、輸出（全鉄鋼）が前年同期比2.9%増の358万1,000トンとなり2カ月連続して前年を上回った。6月としては2010年の383万トンに次ぐ過去2番目の高水準となった。輸入は同12.0%減の61万9,700トンと4カ月連続で減少した。国別の輸出をみると、韓国・台湾などアジアNIE's向けが115万2,000トン（同1.0%減）と減少が続いているが、率は縮小傾向にある。中国向けは49万3,000トン（同14.8%減）と再び減少へ転じた。ASEAN向けは112万8,000トン（同19.8%増）、中東向けは12万トン（同0.9%増）だった。6月の供給国別輸入は、アジアNIE'sからが36万5,000トン（同0.2%増）と横這いで、中国からは8万2,000トン（同52.0%減）だった。

2012年1～6月の累計輸出入は、鉄鋼輸出量が2,058万5,000トンで前年同期比3.6%減となった。2月下旬から日本ミルの主力とするアジア市況が上昇したこと、自動車を中心に昨年のタイ洪水影響からの回復が急ピッチで進んだことなどを背景に、年率4,000万を上回る高水準となった。向け先別の内訳は、アジアが前年同期比7.8%減の1,609万2,000トンで、このうち中国は16.0%減の303万6,000トン、NIE'sは13.5%減の647万9,000トンとなった反面、ASEANが3.5%増の592万3,000トンとなった。その他中東が40.5%増の99万3,000トン、米国が27.9%増の126万7,000トンとなった。一方、上半期の鉄鋼輸入は、前年同期比1.7%減の377万3,400万トンで、仕入国別にはアジアが3.0%増の310万6,700トンで。このうち中国は15.2%減の59万トン、NIE'sが14.9%増の234万トン、ASEANは41.7%減の6万トンとなった。

#### ◆7～9月粗鋼，2,710万トン——経産省見通し

経済産業省が発表した第2四半期（7～9月）の粗鋼需要の見通しは、前期見込み比で

1.9%、54万トン減少し2,710万トンとなった。見通しによると、鋼材需要は前期見込み比0.9%増の2,470万トンで、このうち普通鋼は同0.6%増の1,951万トン、特殊鋼は同2.1%増の520万トンと見通している。

普通鋼鋼材の内需は同2.0%増の1,252万トンで、公共土木需要が14.6%増加することから土木は136万トンと6.7%伸びる。住宅で7.2%増、非住宅で6.6%増と好調な建築需要は369万トンと7.0%増加する。建設需要は全体で504万トンと、6.9%増とみている。製造業需要では、産業機械需要は2.7%増、電気機械は3.1%増を見込む一方、自動車は国内、輸出とも販売が好調ながら秋以降の反動減を織り込み、鋼材需要は2.3%減とみる。また建造ペースを落とす造船需要が6.0%減少すると見込み、製造業全体の普通鋼需要は同1.1%減の748万トンと見込んでいる。普通鋼鋼材輸出は、同1.9%減と3期ぶりに減少する。自動車やエネルギーなど底堅い分野もある一方で、輸出環境の悪化によって全体としては減少するとみている。同省では需要が堅調な一方で粗鋼生産が前期比で減少するのは、在庫調整、半製品輸出の減少に加え電炉の夏季減産を織り込んだ結果としている。

当見通しで生産が行われた場合、2012年度上期の粗鋼生産は5,474万トン（前年同期比2.7%増）となり、年度上期での増加は2年ぶりとなる。

#### ◆新日鉄・住金合併、株主総会で承認

新日本製鉄と住友金属工業は、6月26日に開催された株主総会でそれぞれ4月に締結した株式交換・合併契約が承認され、2012年10月1日に経営統合すると発表した。新日鉄住金は宗岡正二会長兼CEO（新日鉄社長）、友野宏社長兼COO（住金社長）の経営体制でスタートし、鉄鋼事業のグローバル展開、技術先進性の発揮、コスト競争力の強化に注力し、3年内の年率1,500億円規模の統合効果を見込む。

また、日新製鋼と日本金属工業は6月26日に開催された株主総会で、共同持株会社日新製鋼ホールディングスへの株式移転計画を決議し、10月1日に日新製鋼HDが発足する運びとなった。株式移転比率は日新1対日金工0.56で、統合後同社のステンレス事業は新日鉄住金ステンレスに次ぎ国内第2位となり、統合効果は2016年度に約1,300億円を見込んでいる。

#### ◆1～6月世界粗鋼生産、7.7億トンに増——WSA

世界鉄鋼協会（WSA）が発表した6月の世界（62カ国）粗鋼生産は、前年同月比0.1%減、前月比2.5%減の1億2,790万トン（年率換算15億6,000万トン）と前年同月比では5カ月ぶり、前月比では2カ月ぶりの減少となった。日産量では0.7%増と2カ月ぶりに増加した。中国の日産量は前月比1.6%増と2カ月ぶりに増加し、中国以外では0.1%減と3カ月連続して減少した。中国は過去最高だった4月以来の200万トンに乗せた一方、中国以外はわずかながら減少した。

新興工業国では、韓国の日産量が前月比3.1%増と2カ月ぶりに伸び、インドは前月の最高ペースを維持した一方、ブラジルは1.6%減と2カ月連続で減少した。先進国ではEU27が同0.6%減と3カ月連続で減少し、北米は3.3%と2カ月連続で減少した一方、日本は3.1%増と2カ月ぶりに増加した。2012年1～6月累計では前年同期比0.9%増の7億6,686万トンと年率で初の15億トン到達ペースを維持している。上半期の中国の生産量は前年同期比1.8%増の3億5,720万トン、中国以外は同0.0%増の4億970万トンとなっている。 □